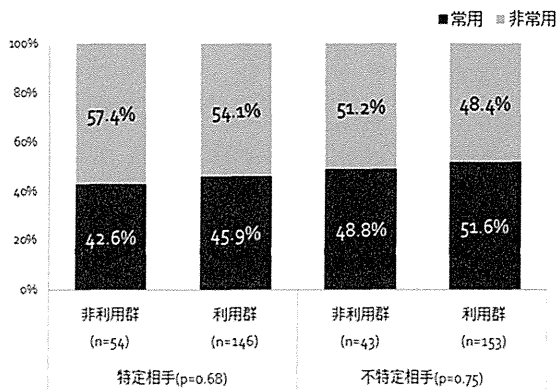


図8 過去6ヶ月間のコンドーム使用状況



3. 多重ロジスティック回帰分析

生涯におけるゲイ向け商業施設利用に関して有意差のみられた項目について、利用経験を目的変数（利用=1、非利用=0）とし、ステップワイズ減少法を用いて多重ロジスティック回帰分析を行った（付表 7-1、7-2）。

ゲイ向け商業施設利用に関連する要因として、生涯におけるネット出会い系サイト等を介した性交経験があるもの（odds3.81、95% C. I. ;2.81%-5.15%）、50-59 歳（odds3.77、95% C. I. ;2.35% -6.06%）、40-49 歳（odds2.68、95% C. I. ;1.72%-4.18%）、周囲に HIV 感染している人が「いる・いると思う」（odds2.49、95% C. I. ;1.74%-3.57%）、過去6ヶ月間の不特定相手とのコンドーム非常用（odds2.20、95% C. I. ;1.05%-4.59%）、過去6ヶ月間の恋人や大切な人とのエイズに関する対話経験（odds1.92、95% C. I. ;1.13% -3.25%）、過去6ヶ月間の友達とのエイズに関する対話経験（odds1.90、95% C. I. ;1.20% -3.00%）、生涯における HIV 検査受検経験（odds1.82、95% C. I. ;1.32%-2.49%）、生涯の性感染症既往（odds1.75、95% C. I. ;1.23% -2.51%）、既婚（odds0.42、95% C. I. ;0.30% -0.59%）、に有意差がみられた。

D. 考察

1. スクリーニング調査回答集団について

本調査はインターネットサイトを運営する A 社が保有するアンケートモニター登録者を対象として、住民基本台帳（2010年3月31日）を基に47都道府県と20歳から59歳の男性年齢階級による2段階化抽出法を用いて行われた。39,766人の有効回答者数は、日本全国を対象にして性的指向を含む HIV に関連した質問紙調査としては最大規模の調査となった。

スクリーニング調査回答者の代表性について、平成22年度国勢調査のデータを基に2次分析を行って得られた5歳区分の未婚割合、独居割合、学歴の属性を比較した。回答者では、未婚割合が全体で43.6%（17,348/39,766）、年齢別では20歳～24歳95.6%、25歳～29歳75.4%、30歳～34歳53.0%、35歳～39歳40.7%、40歳～44歳36.3%、45歳～49歳28.4%、50歳～54歳23.4%、55歳～59歳18.1%であった。これに対して、国勢調査から得られた結果では、男性における有配偶者割合は20歳～24歳で93.6%、25歳～29歳で65.1%、30歳～34歳で32.8%、35歳～39歳で19.1%、40歳～44歳で11.8%、45歳～49歳で6.8%、50歳～54歳で4.4%、55歳～59歳で3.0%であった。また回答者の独居割合は全体で21.7%（8,625/39,766）、年齢別では20歳～24歳で37.5%、25歳～29歳で33.3%、30歳～34歳で23.2%、35歳～39歳で19.6%、40歳～44歳で18.5%、45歳～49歳で17.6%、50歳～54歳で16.4%、55歳～59歳で14.1%であったのに対して、国勢調査から得られた結果では男性における単独世帯は20歳～24歳で28.0%、25歳～29歳で26.4%、30歳～34歳で18.9%、35歳～39歳で16.2%、40歳～44歳で15.9%、45歳～49歳で15.6%、50歳～54歳で15.2%、55歳～59歳で15.5%であり、49歳以下の年齢層は本調査の割合がやや高い傾向にあった。

回答者の最終学歴が高校までであった割合

が 27.0% (10,746/39,766) であったのに対し、国勢調査から得られた結果では 15 歳以上の男性における最終学歴が高校以下である割合は 62.8% であった。スクリーニング調査回答者は一般集団と比較して、やや未婚割合が高く、高い最終学歴を有していた。

また回答者における MSM 割合は 4.6% (95% C. I. ; 4.4%-4.8%) で、郵送法を用いた先行研究の MSM 割合 2.0% よりも高い割合であった。回答者の居住地や年齢層別に MSM 割合を算出したところ有意差がみられたが、MSM 割合が最も低い居住地で 3.4% (四国)、年齢層で 3.8% (50-59 歳) であり、先行研究で報告されてきた MSM 割合よりも高かった。

海外の MSM 割合に関する先行研究では、代表性のある大規模人口集団に自動音声を用いた電話による調査により MSM 割合が明らかにされている。アメリカでは 5.2% (2001-2006)、6.5% (2005)、オーストラリアでは 6.1% (2003 年)、中国では 2.2% (2009 年) と報告されている。本研究の結果は欧米に近く、中国よりも高い割合であった。A 社のインターネットサイトはゲイ向けに運営されているものではなく、性的指向に偏りのある集団とは考えにくい。本研究の調査集団も、海外の先行研究に近い代表性を持つ集団であったと考えられる。これは、インターネットを介した回答方法は、郵送法よりプライバシーの保たれた環境での回答が可能であったことによるものと考えられる。

2. 研究 I : MSM における地域ブロック別 HIV 感染者および AIDS 患者数の動向

本研究では、全国の男性人口における MSM 割合を明らかにし、加えて調査対象数の規模を大きくしたことで地域別 MSM 人口の推定をも可能とした。そのため HIV 感染者および AIDS 患者の地域別の有病率、罹患率の推計が可能となった。これまで MSM の有病率、罹患率を地域別に把握した先行研究は少なく、日

本の MSM における地域間の感染拡大の状況を把握する上で重要な資料となったと考える。

2009 年の新型インフルエンザ流行は保健所等の検査体制に影響を及ぼし、HIV 感染者の動向もその影響を受けたことが言われている。東京は、HIV 感染者の 10 万対報告数が 2008 年以降に減少に転じた地域であり、インフルエンザ流行の影響が懸念される。しかし東海地域は 2007 年から減少し、2009 年以降は上昇の傾向となっており、新型インフルエンザの検査環境への影響は考えにくい。近畿など他の地域では、2008 年から 2011 年の間はほぼ横ばいであった。東京では検査環境の整備が進んでいる一方で、新型インフルエンザによる保健所の検査体制への影響が HIV 感染者の早期検査の提供にも及んだものと考えられる。これらの罹患率の動向の違いは、MSM にとって利用しやすい検査環境に地域差があることを示唆している。

また、各地域の MSM 割合を基に算出された MSM 推定人口による AIDS 罹患率は、各地域の MSM における HIV 流行の状況を示していると考えられる。特に 2011 年の AIDS 罹患率は、東海、九州などの地方が東京や近畿等の都市部に近い値となっており、地方も都市部と同様の感染状況になっていることを示唆している。特に東海地域は 2010 年以降東京を上回っており、早急に対策を講じる必要がある。また中国・四国や北陸でも上昇傾向であり、今後は地方においても MSM における感染が拡大していく可能性がある。

3. 研究 II : ゲイ向け商業施設利用者と非利用者の差異

本調査からゲイバーやゲイナイトなどのゲイ向け商業施設を生涯において利用したことがある MSM は 34.6% であることが示された。これまでコミュニティセンター事業によって主に啓発介入の対象としてきたのはゲイ向け商業施設利用者であったため、ゲイ向け商業

施設利用別の差異について検討を試みた。本報告ではゲイ向け商業施設利用者を介入対象として捉えた。

1) 介入対象について

ゲイ向け商業施設利用群は非利用群に比べ東京、神奈川、大阪、愛知などの人口600万人以上の地域に居住する割合が高かった(利用群51.1% vs 非利用群43.7%)。東京には新宿2丁目(店舗数330軒以上)、神奈川には野毛(店舗数約30軒)、大阪には堂山(店舗数約270軒)、愛知には栄(店舗数約60軒)などの比較的大型のゲイ向け商業施設集積地域が存在し、こうした状況と一致している。

ゲイ向け商業施設利用群における独居割合は43.1%であり、未婚割合は67.2%であった。2010年度に福岡、沖縄、愛知、東京、神奈川、大阪で実施されたゲイバー利用者を対象とした質問紙調査(n4, 169)の結果では、20歳から59歳までのMSMにおける独居割合は52.9%であった。また2009年度に大阪で実施されたゲイバー利用者を対象とした質問紙調査(n1, 269)の結果では、20歳から59歳までのMSMにおける独居割合は41.1%で、異性との未婚割合は93.1%であった。本調査とゲイバー利用者を対象とした質問紙調査では、独居割合はやや高く、未婚割合は低かった。本調査の結果はゲイ向け商業施設利用についてゲイバー以外の施設の利用も含まれた結果であり、先行研究と比較する上で解釈に注意を要する。また先行研究のゲイバー利用者を対象とした質問紙調査は調査実施時点でゲイバーを利用しているのに対して、本調査のゲイ向け商業施設利用経験は生涯における経験であり、現時点での状況ではなく、商業施設利用後に既婚経験を有するMSMもあり、そのため割合が異なった可能性も考えられる。

一方、過去6ヶ月間の性交経験については、ゲイ向け商業施設利用群では非利用群に比べて週1回以上性交経験割合が高く(利用群

12.2% vs 非利用群7.7%)、性交相手が3人以上であった割合も高かった(利用群22.5% vs 非利用群6.0%)。また生涯でインターネットを介して性交経験をもった割合が非利用群に比べて極めて高く(利用群59.2% vs 非利用群16.2%)、過去6ヶ月間に金銭を受け取った性交経験をもった割合(利用群9.5% vs 非利用群1.0%)も高かった。さらに生涯の性感染症既往割合もゲイ向け商業施設利用群では非利用群に比べて高かった(利用群36.5% vs 非利用群10.5%)。これらは性的にアクティブな層がゲイ向け商業施設を利用していた可能性を示唆しており、ゲイ向け商業施設利用群はMSMの中でもリスクの高い集団であったと考えられる。したがって、ゲイ向け商業施設利用群は介入対象として優先順位が高いことは明らかであり、NGOがこれまでに介入活動の対象としてきたことは妥当であったと言える。

2) 介入効果の検討

2000年以降、各地域でゲイ・コミュニティに向け、検査行動を促進させる取り組みが展開されてきた。大阪では予防啓発イベント「swieth」や「PLuS+」でイベントに内包した検査会が実施され、名古屋でもセクシュアルマイノリティに向けたイベント「NLGR」と検査会の同時開催が継続して実施されている。東京を中心とした首都圏地域や大阪を中心とした京阪神地域では2006年から開始されたエイズ予防のための戦略研究において検査行動促進プログラムの開発と実施が大規模に展開された。いずれも主な介入対象としてゲイバー等のゲイ向け商業施設利用者に焦点が当てられた。

本調査結果では生涯におけるHIV抗体検査受検割合は非利用群に比べ利用群で極めて高く(利用群45.2% vs 非利用群16.1%)、多重ロジスティック回帰分析の結果でも調整後のオッズ比が1.82倍(95%CI: 1.32-2.49)で

あった。また生涯の受検場所が保健所であった割合は利用群で高く、ゲイ向け商業施設利用によって有意差がみられた。これに対して非利用群で最も高かった受検場所は病院であった。これらは、これまでの取り組みが保健所への検査行動を促進させた可能性を示しており、介入プログラムの暴露が比較的少なかった可能性のあるゲイ向け商業施設非利用群では病院で実施されている術前検査や健康診断などの検査利用が高かったため、病院での利用が中心となったと考えられる。

本研究班では HIV に関する規範として周囲の HIV 感染者の有無や過去 6 ヶ月間の HIV やエイズに関する対話経験について把握し、対象者の疾病に関する身近さや罹患可能性を把握してきたが、これらの指標についても利用群は非利用群に比べて高く、多重ロジスティック回帰分析においても調整後のオッズ比が利用群において、周囲に HIV に感染している人がいる・いると思うものが非利用群の 2.49 倍(95%CI: 1.74-3.57)、過去 6 ヶ月間に恋人と対話経験があるものが非利用群の 1.92 倍(95%CI: 1.13-3.25)、過去 6 ヶ月間に友達と対話経験があるものが非利用群の 1.90 倍(95%CI: 1.20-3.00)であった。検査行動を促進させる上でこうした規範が果たす役割が重要であることは先行研究によって報告されており、これらの指標にゲイ向け商業施設利用によって差異がみられたことは介入効果であると考えられる。

3) 介入継続の必要性

NGO と協働して介入プログラムを開発し、ゲイ向け商業施設利用者を中心に展開してきたことの妥当性とその効果が示唆された一方で、多重ロジスティック回帰分析の結果では、過去 6 ヶ月間のアナルセックス時のコンドーム使用状況について不特定相手と非常用であったものがゲイ向け商業施設利用群では非利用群の 2.20 倍(95%CI: 1.05-4.59)である

ことが示された。過去 6 ヶ月間の性交経験を有するものに焦点をあてた分析では、過去 6 ヶ月間の不特定相手とのコンドーム非常用割合は非利用群で 51.2%、利用群で 48.4%であり、利用群でやや低い傾向であるものの有意差はみられなかった($p=0.75$)。したがってゲイ向け商業施設利用によって過去 6 ヶ月間のアナルセックス経験が異なり、非利用群では利用群に比べアナルセックスの機会が低かったと考えられる。過去 6 ヶ月間の性交経験割合は利用群で高く、性感染症既往割合も高い(odds 1.75、95%CI: 1.23-2.51)。また生涯におけるインターネットを介した性交経験は利用群が非利用群の 3.81 倍(95%CI: 2.81-5.15)と極めて高く、性行為に由来する出会いの方法としてのインターネット利用割合はゲイ向け商業施設利用群で高かった。これらは新たな出会いの方法としてインターネットが台頭してきた現在においても、その利用者は同時にゲイ向け商業施設を利用する可能性を示している。そのため今後もゲイ向け商業施設利用者を対象として継続的に介入を続けていく必要がある。

また性感染症既往歴からはゲイ向け商業施設利用群で流行している可能性を示しており、これらの集団においてセクシュアルネットワークが現時点では限定的である可能性が考えられる。しかし今後はインターネットなどを介して非利用群にも広がる可能性があり、その前に商業施設利用群における介入活動を浸透させていくことが感染の拡大を抑制するためには重要であり、商業施設利用者に介入を進めていくことでインターネット利用者にも予防啓発を浸透していくことが望まれる。

4. 本研究の限界

本研究における限界は以下の点である。第 1 に本研究の調査対象者はインターネットモニターであり、その属性に偏りがあるため、結果の一般化には限界がある。

第2に本研究は横断調査であるため、一時点での現象を捉えたに過ぎず、本研究で示されたのはゲイ向け商業施設利用行動やインターネットを介した性行動等は生涯の経験であり、最近の動向を把握するには異なる研究デザインを用いる必要があるだろう。

E. 結語

インターネットサイトのモニターを対象とした質問紙調査を実施した。本調査はコミュニティベースの調査とは異なり、性的指向に偏りの少ない集団を対象とした点で、先行研究より客観的な資料となったと言える。調査によって得られた地域別 MSM 割合を用いてブロック別 MSM の HIV 及び AIDS 有病率と罹患率の算出し、東京都のみならず他地域においても HIV や AIDS が流行しつつある状況を示した

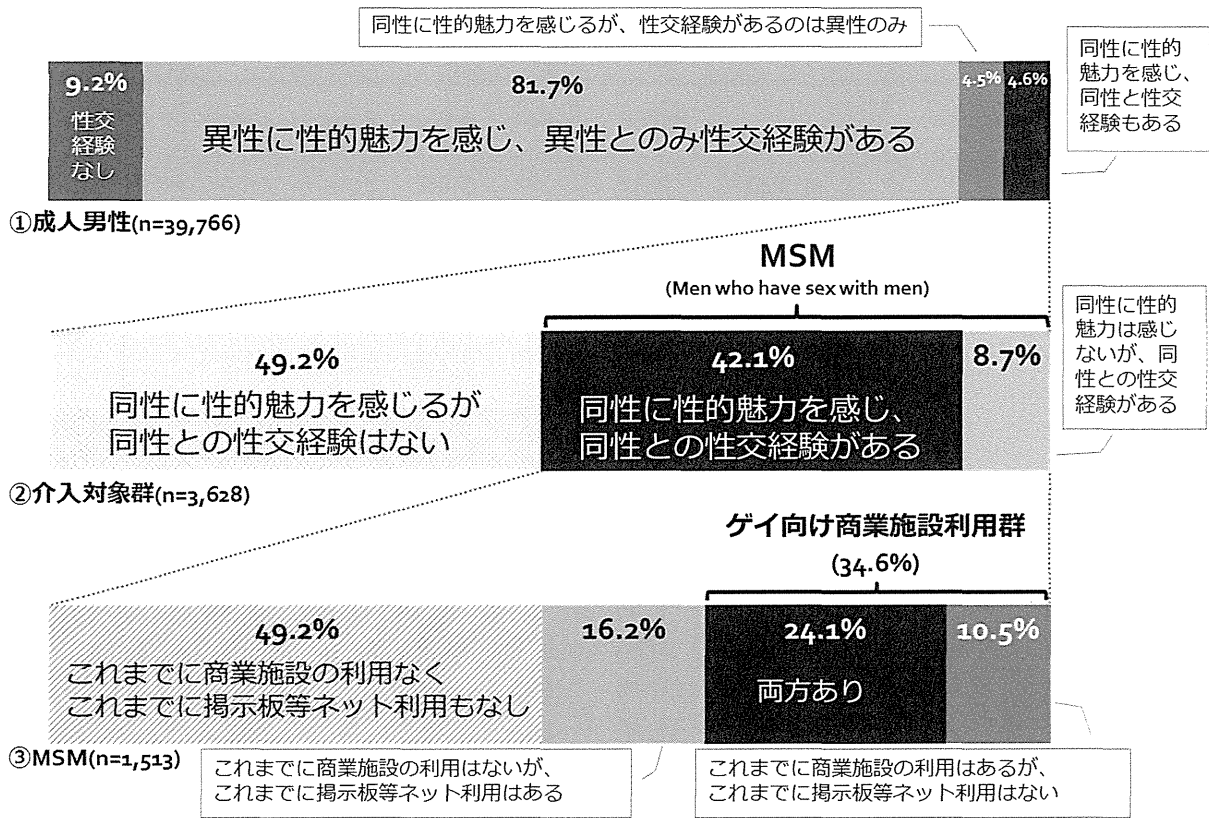
(研究 I)。またスクリーニング調査によって抽出された MSM 集団を対象とした調査では生涯におけるゲイ向け商業施設の利用状況が明らかとなり、ゲイ向け商業施設利用による差異の検討を通じて、NGO の実施する予防介入の対象について妥当性をはじめて明らかにしたと言える。またこれまでの介入効果や今後の介入継続の必要性を示したことで、今後のエイズ対策に資する結果が得られた。

F. 発表論文等

(国内学会等発表)

1. 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代: MSM (Men who have sex with men) コミュニティにおけるゲイ向け商業施設利用者と非利用者の比較, 2012年11月, 第26回日本エイズ学会学術集会・総会, 神奈川県

付図 分析対象の全体像



*図①は、スクリーニング調査の有効回答者における「性交経験の相手の性別」と「性的魅力を感じる相手の性別」による分類の構成を示した。本研究班に参加するNGOやコミュニティセンターで展開される予防啓発介入は、同性との性交経験を有する男性(MSM)が主な介入対象であるが、今後その可能性を有するものも対象となるため、本研究では「同性に性的魅力を感じるが、性交経験があるのは異性のみ」も介入対象群とした。

*図②は介入対象群における「同性との性交経験」と「性的魅力を感じる相手の性別」による分類の割合を示した。介入対象群における50.8%がMSMであった。

*図③はMSMにおけるゲイ向け商業施設利用経験とインターネットを介して出会った相手との性交経験による分類の割合を示した。

参考 生涯のゲイ向け商業施設と生涯の掲示板等のネット利用による分類別

過去6ヶ月間の膣性交やアナルセックス経験割合及び、
生涯の掲示板等のネットを介した性交経験割合

	両方なし (n744)	ネット利用 のみ(n245)	両方あり (n365)	ゲイ向け商業施設 のみ(n159)	計 (n1513)
過去6ヶ月間の膣性交やアナルセックス経験者割合	30.5%	44.1%	54.0%	32.1%	38.5%
生涯のパソコンや携帯電話やスマートフォンの出会い系サイト/掲示板で出会った相手との性交渉経験	0.0%	66.5%	84.9%	0.0%	31.3%

付表 1 スクリーニング調査の概要 - MSM における割合と 95%信頼区間

		Total	MSM			<i>p value</i> *1
		n	n	%	95% <i>C.I.</i>	
全体		39766	1844	4.6%	4.4% - 4.8%	
居住地域	北海道	1617	95	5.9%	4.7% - 7.0%	<0.01
	東北	2859	101	3.5%	2.9% - 4.2%	
	関東	14081	685	4.9%	4.5% - 5.2%	
	甲信越	1586	66	4.2%	3.2% - 5.1%	
	北陸	913	43	4.7%	3.3% - 6.1%	
	東海	4726	197	4.2%	3.6% - 4.7%	
	近畿	6390	327	5.1%	4.6% - 5.7%	
	中国	2149	91	4.2%	3.4% - 5.1%	
	四国	1150	39	3.4%	2.4% - 4.4%	
	九州	4295	200	4.7%	4.0% - 5.3%	
年齢	20-29歳	8293	381	4.6%	4.1% - 5.0%	<0.01
	30-39歳	11394	628	5.5%	5.1% - 5.9%	
	40-49歳	10039	455	4.5%	4.1% - 4.9%	
	50-59歳	10040	380	3.8%	3.4% - 4.2%	
最終学歴	小・中学校・高校	10746	484	4.5%	4.1% - 4.9%	0.44
	専門学校・大学・大学院	29020	1360	4.7%	4.4% - 4.9%	
婚姻状況	未婚	17348	917	5.3%	5.0% - 5.6%	<0.01
	既婚	22418	927	4.1%	3.9% - 4.4%	
居住形態	同居	31141	1294	4.2%	3.9% - 4.4%	<0.01
	独居	8625	550	6.4%	5.9% - 6.9%	

*1 MSM vs not MSM Chi-Square

付表2 都道府県別およびブロック別 MSM人口の推定

ブロック*1	県名	H22国勢調査*2		楽天調査2011			推定した MSM人口 B×F	ブロック別	
		A,男性人口 All age(n)	B,男性人口 20-59(n)	D 20-59(n)	E MSM(n)	F;MSM割合 D/E(%)		MSM割合	推定 MSM人口
北海道・ 東北ブロック	北海道	2,603,345	1,345,498	1,617	95	5.9%	79,049		
	青森県	646,141	326,297	437	13	3.0%	9,707		
	岩手県	634,971	314,986	399	16	4.0%	12,631		
	宮城県	1,139,566	602,459	714	33	4.6%	27,845	4.4%	159,668
	秋田県	509,926	248,579	319	11	3.4%	8,572		
	山形県	560,643	275,663	357	8	2.2%	6,177		
	福島県	984,682	496,500	633	20	3.2%	15,687		
関東・ 甲信越ブロック	東京都	6,512,110	3,793,897	4,452	257	5.8%	219,010	5.8%	219,010
	茨城県	1,479,779	776,716	951	31	3.3%	25,319		
	栃木県	996,855	530,258	632	17	2.7%	14,263		
	群馬県	988,019	505,905	596	19	3.2%	16,128		
	埼玉県	3,608,711	1,966,242	2,377	121	5.1%	100,091		
	千葉県	3,098,139	1,646,005	2,013	91	4.5%	74,410	4.4%	408,015
	神奈川県	4,544,545	2,544,156	3,060	149	4.9%	123,882		
	新潟県	1,148,236	575,880	715	28	3.9%	22,552		
	山梨県	422,526	214,101	279	16	5.7%	12,278		
	長野県	1,046,178	513,772	592	22	3.7%	19,093		
東海ブロック	岐阜県	1,006,247	501,874	597	22	3.7%	18,495		
	静岡県	1,853,952	954,766	1,155	68	5.9%	56,211	4.2%	163,190
	愛知県	3,704,220	1,999,392	2,378	87	3.7%	73,148		
	三重県	903,398	457,004	596	20	3.4%	15,336		
北陸ブロック	富山県	526,605	261,420	319	15	4.7%	12,292		
	石川県	564,972	285,581	355	18	5.1%	14,480	4.7%	34,794
	福井県	389,712	191,716	239	10	4.2%	8,022		
近畿ブロック	滋賀県	696,769	364,017	474	18	3.8%	13,823		
	京都府	1,265,387	643,676	793	45	5.7%	36,526		
	大阪府	4,285,566	2,232,624	2,701	153	5.7%	126,469	5.1%	264,780
	兵庫県	2,673,328	1,364,043	1,667	79	4.7%	64,643		
	奈良県	663,321	327,100	437	17	3.9%	12,725		
	和歌山県	471,397	224,590	318	15	4.7%	10,594		
中国・ 四国ブロック	鳥取県	280,701	138,688	160	5	3.1%	4,334		
	島根県	342,991	162,748	199	4	2.0%	3,271		
	岡山県	933,168	458,894	558	27	4.8%	22,205		
	広島県	1,380,671	696,884	833	43	5.2%	35,974		
	山口県	684,176	327,336	399	12	3.0%	9,845	3.9%	106,244
	徳島県	372,710	181,709	199	7	3.5%	6,392		
	香川県	479,951	230,544	317	10	3.2%	7,273		
	愛媛県	673,326	327,428	436	18	4.1%	13,518		
	高知県	359,134	169,982	198	4	2.0%	3,434		
	九州ブロック	福岡県	2,393,965	1,246,353	1,549	73	4.7%	58,737	
佐賀県		400,136	197,741	240	7	2.9%	5,767		
長崎県		665,899	324,973	438	19	4.3%	14,097		
熊本県		853,514	418,655	513	25	4.9%	20,402	4.7%	162,289
大分県		564,890	275,821	312	20	6.4%	17,681		
宮崎県		533,035	258,007	304	16	5.3%	13,579		
鹿児島県		796,896	387,343	478	14	2.9%	11,345		
沖縄県		683,328	366,682	461	26	5.6%	20,681		
全国		62,327,737	32,654,505	39,766	1,844	4.6%	1,502,107		

*1 平成23年エイズ発生動向年報によるブロック区分を参照した

*2 総務省統計局ホームページ <http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/index.htm#kekkgai>(2012年7月31日アクセス可)

付表3 ブロック別 HIV 及び AIDS 罹患率の推移と有病率の算出(推定 MSM 人口 10 万対)

ブロック	MSM 割合	推定 MSM人口	罹患率 ^{*3} の推移											有病率 ^{*3}	
			2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010		2011
HIV															
北海道・東北	4.4%	159,668	3.76	5.01	3.13	3.76	8.14	9.39	15.03	15.66	12.53	16.28	12.53	14.40	126.51
関東・甲信越 ^{*2}	4.4%	408,015	5.64	6.86	6.37	9.07	13.23	12.50	13.97	15.44	16.42	21.08	18.14	20.34	202.44
東京都	5.8%	219,010	56.16	74.43	78.99	78.08	88.58	101.82	114.15	137.44	151.59	116.43	127.85	105.93	1438.75
東海	4.2%	163,190	6.13	14.71	14.71	17.77	25.12	34.32	39.22	42.89	33.70	26.96	45.96	55.76	384.83
北陸	4.7%	34,794	0.00	11.50	11.50	0.00	8.62	8.62	11.50	8.62	22.99	8.62	22.99	17.24	140.83
近畿	5.1%	264,780	11.71	21.90	20.39	27.57	39.66	42.30	47.59	57.78	67.23	60.81	67.23	58.54	555.56
中国・四国	3.9%	106,244	5.65	7.53	5.65	12.24	16.94	17.88	14.12	24.47	29.18	22.59	28.24	32.00	224.95
九州	4.7%	162,289	2.46	4.31	8.01	6.78	12.94	21.57	19.10	30.19	32.04	36.97	29.58	38.20	258.80
全国	4.6%	1,514,231	13.41	19.81	20.14	22.45	29.65	33.94	37.71	45.57	49.07	43.52	47.09	45.30	461.36
AIDS															
北海道・東北	4.4%	159,668	0.00	1.88	1.25	1.88	4.38	3.76	6.26	6.26	8.14	5.64	5.64	5.64	55.74
関東・甲信越 ^{*2}	4.4%	408,015	4.41	4.17	5.15	4.41	8.33	6.13	5.88	5.39	5.64	6.86	6.62	8.33	90.68
東京都	5.8%	219,010	15.98	16.44	17.35	19.63	21.46	21.00	24.20	19.63	23.74	25.11	24.66	21.00	329.67
東海	4.2%	163,190	1.23	4.29	3.68	3.68	6.13	7.35	13.48	17.16	15.93	18.38	25.12	35.54	161.16
北陸	4.7%	34,794	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	5.75	5.75	8.62	5.75	5.75	5.75	11.50	48.86
近畿	5.1%	264,780	1.89	4.91	4.15	3.78	6.04	9.06	10.20	10.20	13.60	17.00	22.66	21.53	139.36
中国・四国	3.9%	106,244	0.94	0.94	1.88	4.71	8.47	6.59	7.53	4.71	11.29	10.35	8.47	11.29	79.06
九州	4.7%	162,289	3.08	3.70	0.62	3.70	1.85	4.31	6.16	8.63	10.48	15.40	13.56	21.57	97.36
全国	4.6%	1,514,231	4.36	5.48	5.35	6.01	8.32	8.52	10.30	10.04	11.95	13.54	14.79	16.84	136.84

*1 平成 23 年エイズ発生動向年報 表 9-2 の日本人男性同性間の HIV 感染者および AIDS 患者報告数を基に算出した。エイズ発生動向年報はブロック別・年齢別の集計を掲載していないため、全年齢を含んでいる。

*2 東京都を除く。

*3 罹患率は 2000 年から 2011 年、有病率は 1985 年から 2011 年の報告累計を基に算出した。

付表 4 生涯のゲイ向け商業施設利用別 基本属性

		生涯のゲイ向け商業施設の利用状況		計 n=1513	Pearson χ^2 p value
		非利用群 n=989	利用群 n=524		
年齢					
	20-29歳	19.0%	20.8%	19.6%	0.85
	30-39歳	34.8%	33.2%	34.2%	
	40-49歳	24.9%	24.8%	24.9%	
	50-59歳	21.3%	21.2%	21.3%	
居住する都市の規模					
	600万人未満	56.3%	48.9%	53.7%	0.01
	600万人以上(東京/神奈川/大阪/愛知/埼玉/千葉)	43.7%	51.1%	46.3%	
居住形態					
	同居	77.8%	56.9%	70.5%	<0.01
	独居	22.2%	43.1%	29.5%	
婚姻状況					
	未婚	41.1%	67.2%	50.1%	<0.01
	既婚	58.9%	32.8%	49.9%	
性的に魅力を感じる相手					
	同性のみ	64.7%	44.3%	57.6%	<0.01
	両方または異性のみ	35.3%	55.7%	42.4%	
生涯における性交相手の性別					
	同性のみ	73.6%	48.9%	65.0%	<0.01
	両方	26.4%	51.1%	35.0%	
携帯電話の利用頻度					
	利用なしまたは時々利用	34.6%	33.4%	34.2%	0.64
	毎日利用	65.4%	66.6%	65.8%	
スマートフォンの利用頻					
	利用なしまたは時々利用	63.9%	47.1%	58.1%	<0.01
	毎日利用	36.1%	52.9%	41.9%	
生涯のHIV抗体検査受検					
	なし	83.9%	54.8%	73.8%	<0.01
	あり	16.1%	45.2%	26.2%	
生涯の性感染症既往					
	なし	89.5%	63.5%	80.5%	<0.01
	あり	10.5%	36.5%	19.5%	

付表5 生涯のゲイ向け商業施設利用別 HIVに関する意識及び対話経験、性行動

	生涯のゲイ向け商業施設の利用状況		計 n=1513	Pearson χ^2 p value
	非利用群 n=989	利用群 n=524		
あなたの友だちや知り合いに、HIVに感染している人はいると思いますか。				
いない/いないと思う/わからない	89.9%	59.7%	79.4%	<0.01
いる/いると思う	10.1%	40.3%	20.6%	
過去6ヶ月間の家族とのHIVやエイズについての対話経験				
なし	95.7%	84.4%	91.7%	<0.01
あり	4.3%	15.6%	8.3%	
過去6ヶ月間の恋人や大切な人とのHIVやエイズについての対話経験				
なし	94.1%	73.7%	87.0%	<0.01
あり	5.9%	26.3%	13.0%	
過去6ヶ月間の友達や知り合いとのHIVやエイズについての対話経験				
なし	93.0%	68.7%	84.6%	<0.01
あり	7.0%	31.3%	15.4%	
生涯におけるネット出会い系サイト等を介した性交経験				
なし	83.5%	40.8%	68.7%	<0.01
あり	16.5%	59.2%	31.3%	
過去6ヶ月間に相手にお金を払った性交経験				
なし	90.0%	80.9%	86.8%	<0.01
あり	10.0%	19.1%	13.2%	
過去6ヶ月間に相手からお金をもらった性交経験				
なし	99.0%	90.5%	96.0%	<0.01
あり	1.0%	9.5%	4.0%	
過去6ヶ月間の膣性交やアナルセックスの頻度				
月1回以下(なしを含む)	83.4%	72.1%	79.5%	<0.01
月2~3回	8.9%	15.6%	11.2%	
週1回以上	7.7%	12.2%	9.3%	
過去6ヶ月間の膣性交やアナルセックスの相手人数				
1人(なしを含む)	88.8%	70.2%	82.4%	<0.01
2人	5.3%	7.3%	5.9%	
3人以上	6.0%	22.5%	11.7%	
過去6ヶ月間の特定相手とのアナルセックス時のコンドーム使用状況				
していない/常用	96.9%	84.9%	92.7%	<0.01
非常用	3.1%	15.1%	7.3%	
過去6ヶ月間の不特定相手とのアナルセックス時のコンドーム使用状況				
していない/常用	97.8%	85.9%	93.7%	<0.01
非常用	2.2%	14.1%	6.3%	

付表6 過去6ヶ月間にセックス経験があるものを対象と性行動

	生涯のゲイ向け商業施設の利用状況				合計	Pearson χ^2 p value	
	非利用群		利用群				
生涯のネット出会い系サイト等を用いた性交渉経験							
ない	250	74.6%	65	26.2%	315	54.0%	<0.01
ある	85	25.4%	183	73.8%	268	46.0%	
合計	335	100.0%	248	100.0%	583	100.0%	
過去6ヶ月間に相手にお金を払った性交渉経験							
ない	262	78.2%	172	69.4%	434	74.4%	0.02
ある	73	21.8%	76	30.6%	149	25.6%	
合計	335	100.0%	248	100.0%	583	100.0%	
過去6ヶ月間に相手からお金をもらった性交渉経験							
ない	327	97.6%	206	83.1%	533	91.4%	<0.01
ある	8	2.4%	42	16.9%	50	8.6%	
合計	335	100.0%	248	100.0%	583	100.0%	
過去6ヶ月間の膣性交やアナルセックスの頻度							
月1回以下	171	51.0%	102	41.1%	273	46.8%	0.05
月2~3回	88	26.3%	82	33.1%	170	29.2%	
週1回以上	76	22.7%	64	25.8%	140	24.0%	
合計	335	100.0%	248	100.0%	583	100.0%	
過去6ヶ月間の膣性交やアナルセックスの相手人数							
1人	224	66.9%	92	37.1%	316	54.2%	<0.01
2人	52	15.5%	38	15.3%	90	15.4%	
3人以上	59	17.6%	118	47.6%	177	30.4%	
合計	335	100.0%	248	100.0%	583	100.0%	
過去6ヶ月間の特定相手とのアナルセックス時のコンドーム使用状況*1							
常用	23	42.6%	67	45.9%	90	45.0%	0.68
非常用	31	57.4%	79	54.1%	110	55.0%	
合計	54	100.0%	146	100.0%	200	100.0%	
過去6ヶ月間の不特定相手とのアナルセックス時のコンドーム使用状況*2							
常用	21	48.8%	79	51.6%	100	51.0%	0.75
非常用	22	51.2%	74	48.4%	96	49.0%	
合計	43	100.0%	153	100.0%	196	100.0%	

*1 過去6ヶ月間の特定の同性とのアナルセックス経験があるものを対象として分析したため総数は異なる

*2 過去6ヶ月間の不特定の同性とのアナルセックス経験があるものを対象として分析したため総数は異なる

付表 7-1 生涯のゲイ向け商業施設利用に関連する要因 - 多重ロジスティック回帰分析結果

		N=1513	利用群		COR	95% C.I.	AOR	95% C.I.
			n=524	n/N %				
年齢	29歳以下	297	109	36.7%	1.00		1.00	
	30-39歳	518	174	33.6%	0.87	0.65 - 1.18	1.57	1.05 - 2.34
	40-49歳	376	130	34.6%	0.91	0.66 - 1.25	2.68	1.72 - 4.18
	50-59歳	322	111	34.5%	0.91	0.65 - 1.26	3.77	2.35 - 6.06
居住する都市の規模	600万人未満	813	256	31.5%	1.00		1.00	
	600万人以上(東京/神奈川/大阪/愛知/埼玉/千葉)	700	268	38.3%	1.35	1.09 - 1.67	0.98	0.74 - 1.28
居住形態	同居	1067	298	27.9%	1.00		1.00	
	独居	446	226	50.7%	2.65	2.11 - 3.33	1.21	0.87 - 1.69
婚姻状況	未婚	758	352	46.4%	1.00		1.00	
	既婚	755	172	22.8%	0.34	0.27 - 0.42	0.42	0.30 - 0.59
性的に魅力を感じる相手の性別	同性のみ	872	232	26.6%	1.00		1.00	
	両方または異性のみ	641	292	45.6%	2.31	1.86 - 2.86	1.36	0.92 - 2.01
生涯における性交相手の性別	同性のみ	984	256	26.0%	1.00		1.00	
	両方	529	268	50.7%	2.92	2.34 - 3.65	1.51	1.01 - 2.26
スマートフォンの利用頻度	利用なしまたは時々利用	879	247	28.1%	1.00		1.00	
	毎日利用	634	277	43.7%	1.99	1.60 - 2.46	1.65	1.25 - 2.17
生涯のHIV抗体検査受検経験	なし	1117	287	25.7%	1.00		1.00	
	あり	396	237	59.8%	4.31	3.39 - 5.49	1.82	1.32 - 2.49
生涯の性感染症既往	なし	1218	333	27.3%	1.00		1.00	
	あり	295	191	64.7%	4.88	3.73 - 6.39	1.75	1.23 - 2.51
あなたの友だちや知り合いに、 HIVに感染している人はいると思いますか。	いない/いないと思う/わからない	1202	313	26.0%	1.00		1.00	
	いる/いると思う	311	211	67.8%	5.99	4.57 - 7.86	2.49	1.74 - 3.57

付表 7-2 生涯のゲイ向け商業施設利用に関連する要因 - 多重ロジスティック回帰分析結果 (続き)

		N=1513	利用群		COR	95%C.I.	AOR	95%C.I.
			n=524	n/N %				
過去6ヶ月間の家族との	なし	1388	442	31.8%	1.00		1.00	
HIVやエイズについての対話経験	あり	125	82	65.6%	4.08	2.77 - 6.00	0.76	0.40 - 1.44
過去6ヶ月間の恋人や大切な人との	なし	1317	386	29.3%	1.00		1.00	
HIVやエイズについての対話経験	あり	196	138	70.4%	5.74	4.13 - 7.97	1.92	1.13 - 3.25
過去6ヶ月間の友達や知り合いとの	なし	1280	360	28.1%	1.00		1.00	
HIVやエイズについての対話経験	あり	233	164	70.4%	6.07	4.47 - 8.25	1.90	1.20 - 3.00
生涯におけるネット出会い系サイト等を 介した性交渉経験	なし	1040	214	20.6%	1.00		1.00	
	あり	473	310	65.5%	7.34	5.76 - 9.35	3.81	2.81 - 5.15
過去6ヶ月間に相手にお金を払った性交渉経験	なし	1314	424	32.3%	1.00		1.00	
	あり	199	100	50.3%	2.12	1.57 - 2.86	0.76	0.48 - 1.20
過去6ヶ月間に相手からお金をもらった性交渉経験	なし	1453	474	32.6%	1.00		1.00	
	あり	60	50	83.3%	10.33	5.19 - 20.54	1.91	0.76 - 4.82
過去6ヶ月間の膣性交やアナルセックスの頻度	月1回以下(なしを含む)	1203	378	31.4%	1.00	1.00	1.00	
	月2~3回	170	82	48.2%	2.03	1.47 - 2.81	1.55	0.97 - 2.47
	週1回以上	140	64	45.7%	1.84	1.29 - 2.62	0.92	0.53 - 1.59
過去6ヶ月間の膣性交やアナルセックスの相手人数	1人(なしを含む)	1246	368	29.5%	1.00	1.00	1.00	
	2人	90	38	42.2%	1.74	1.13 - 2.70	0.54	0.29 - 1.00
	3人以上	177	118	66.7%	4.77	3.41 - 6.67	1.07	0.62 - 1.84
過去6ヶ月間の特定相手との	していない/常用	1403	445	31.7%	1.00		1.00	
アナルセックス時のコンドーム使用状況	非常用	110	79	71.8%	5.49	3.57 - 8.44	1.16	0.61 - 2.20
過去6ヶ月間の不特定相手との	していない/常用	1417	450	31.8%	1.00		1.00	
アナルセックス時のコンドーム使用状況	非常用	96	74	77.1%	7.23	4.43 - 11.79	2.20	1.05 - 4.59

全国の成人男性を対象とした郵送法による質問紙調査 性指向別にみた検査行動、情報との接触、知識に関する研究

研究分担者：金子典代（名古屋市立大学看護学部）

研究協力者：塩野徳史（名古屋市立大学看護学部）、健山正男（琉球大学大学院医学研究科）、山本政弘（国立病院機構九州医療センター）、鬼塚哲郎（京都産業大学/MASH 大阪）、内海眞（国立病院機構東名古屋病院）、伊藤俊弘（国立病院機構仙台医療センター）、市川誠一（名古屋市立大学看護学部）

研究要旨

本研究の目的は性指向別にみた成人男性の HIV 感染症の検査受検経験、知識、身近さ、情報認知の実態について、2009 年と 2012 年の 2 回にわたり実施した調査結果の比較を行い、検査行動と情報との接触、知識といった関連要因の経年的な変化をとらえることである。対象者のサンプリングに際しては、調査地域である関東、東海、近畿、九州地域を市郡規模（大都市、その他の市、町村）で層化を行い、各ブロック・市郡規模別の層における人口規模により指定した標本数について比例配分を行った。2009 年に実施した調査では 3,000 の標本について、2012 年は 4,000 の標本について配分を行った。日本の成人男性における MSM の割合は 2012 年調査では 2.7% であった。HIV 陽性者の早期発見の増加、AIDS により診断される報告数の減少は重要な課題であるが、本調査からは MSM においても異性愛成人男性群においても、検査行動の大きな上昇は観察されなかった。ただし、HIV/AIDS に関する情報への接触経験は、2012 年は 2009 年と比較しても低下しており、社会的にも HIV/AIDS に関する関心の低下が示唆された。検査行動に目に見える変化をもたらすにはさらなる啓発や検査環境の整備が必要となる可能性が示唆された。

A. 研究目的

本研究の目的は性指向別にみた成人男性の HIV 感染症の検査受検経験、知識、身近さ、情報認知の実態について、2009 年と 2012 年の 2 回の調査結果の比較を行い、検査行動と関連要因の経年的な変化の実態をとらえることである。

B. 研究方法

1. 対象者選出と質問紙調査の方法

対象者は社団法人中央調査社の所有するマスターサンプルから抽出した。サンプリングに際しては、調査地域である関東、東海、近畿、九州地域を市郡規模（大都市、その他の

市、町村）で層化を行い、各ブロック・市郡規模別の層における 20 歳以上 59 歳未満の男性人口規模により指定した標本数について比例配分を行った。2009 年に実施した調査では 3,000 の標本について、2012 年は 4,000 の標本について配分を行った。各地域に比例配分された標本数に基づき、対象者をマスターサンプルから無作為に抽出した。マスターサンプルは、中央調査社が定期的に行っている調査に、今後も回答協力することを申し出た集団から構成されている。

第 1 回調査は 2009 年 2 月から 3 月にかけて、第 2 回調査は 2012 年 2 月から 3 月にかけて実施し、対象者に質問紙を送付し郵送で回答を

回収した。質問紙には氏名や住所等、個人情報記載されていない。対象者には、回答の拒否が可能であること、結果は統計的に処理され、個人が特定されることはないことを説明した。回答の謝礼として500円分の図書券を配布した。ただし本調査は匿名であるため、回答者には質問紙とは別にはがきに謝礼発送先の記入を依頼し、調査票とは別に返送する仕組みを取り入れた。なお、本研究計画は、名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会より承認を受けて実施した。

2. 質問項目

対象者の基本属性として、居住地、年齢、学歴、性行為経験のある性別、性的に魅力を感じる性別について尋ねた。HIV検査受検については、生涯と過去1年それぞれについて「あなたはこれまでにHIV検査を受検したことがありますか」という質問を設けた。回答選択肢は「ある」「ない」の二項目であった。先行研究を参考に、HIV検査の受検に関連する要因として、HIVに感染した人（以下、HIV陽性者と記載）が身近にいるか、またはいると思うか、過去1年のHIVやエイズに関する情報入手経験、HIVや性感染症の知識についても尋ねた。HIV陽性者が身近にいるかどうかについては、「いる・いると思う」と「いない・いないと思う」の2群、HIVやエイズ関連の情報入手経験については、「あり」「なし」の2群に分類した。HIVの知識については、「性感染症とHIVの重複感染、即日検査や自宅検査キットにおける偽陽性の可能性、通常HIV検査におけるウィンドウピリオド、保健所では無料匿名で検査可能、治療薬による発症までの時間の延伸、日本のHIV感染経路は性行為が最多、治療薬の進歩でエイズは完治可能性の各項目の正誤について尋ねた。知識については、性指向別の比較については、男性と性行為経験がある群をMen who have sex with men（以下、MSM）群とし、女性のみと性経験が

ある群を異性愛者群として分類した。

3. 分析方法

第2回調査については、2010年、2012年の2回の調査の比較を行うため、本研究班における介入地域のみ限定したうえで集計を行った。

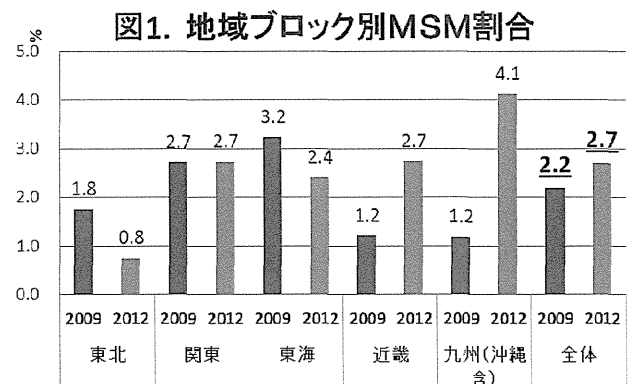
生涯のHIV検査受検経験の有無と基本属性の関連を単変量解析により検討した。また、検査経験を有する者における過去1年の検査経験、検査受検場所について分布を算出した。次に生涯でのHIV検査受検経験の有無別に関連項目（性行為経験のある相手の性別、性的魅力を感じる性別、HIV陽性者が身近にいるか/いると思うか、HIVや性感染症予防教育を受けた経験、HIV・性感染症の情報入手、知識、HIV検査の利用しやすさ）について単変量解析により検討した。

クロス集計を行う際はカイ二乗検定を用い、有意水準は5%を採用した。統計分析にはIBM SPSS Statistics for Windows ver.19.0, Windows Excelを用いた。

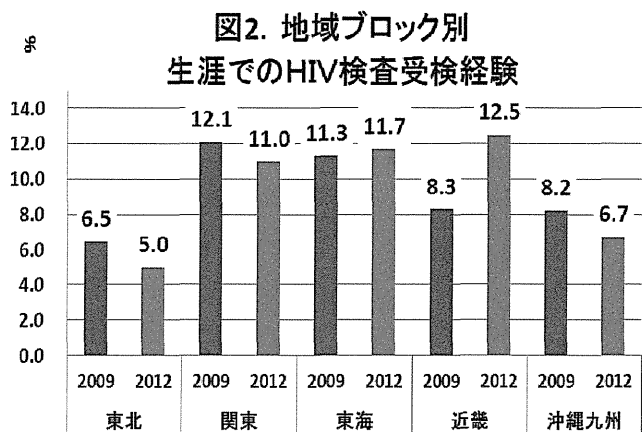
C. 研究結果

平成23（2011年）年度に実施した第2回調査では、全国から合計2,149件の回答を得た。集計結果を添付表1-2、図1-2に示した。

MSMの割合は2012年調査では2.7%となっていた。地域ブロック別にみると、0.8-4.1%の幅があった（図1）。



生涯の検査受検行動は異性愛者においては2009年調査では10.6%、2012年調査では10.9%であり変化は見られなかった。地域ブロック別にみると東北、九州、沖縄地域は低い傾向が見られた(図2)。



性指向別にみると、MSM についてはサンプル数が少ない限界があるが、2009年調査では21.4%、2012年調査では、生涯のHIV検査の受検経験割合が13.6%と、2009年調査より低かった(表2)。

HIVに関する知識はMSMの方が異性愛者よりも全体的に高く、治療薬によりエイズの発症を防ぐことが可能となった、といった項目では正答率が第2回調査の方が有意に上昇していた。ウィンドウピリオドに関する知識や即日検査方法における偽陽性の知識は第2回調査の方が正答割合は低下していた。MSM、異性愛者双方において、全般に過去1年におけるHIV関連の情報の入手経験は第2回の方が有意に下がっていた。

D. 考察

MSMの割合は2012年度調査では2.7%であった。地域別にみると0.8-4.1%とばらつきが見られた。本調査では20歳代のものはマスターサンプルの年齢層の偏りがあるため含まれていないのが限界点である。異性愛者においてもMSMにおいても検査行動の大きな変化は見られていなかった。また過去1年間の

HIVやAIDS関連の情報の入手経験は有意に下がっており、背景要因の詳細な検討が今後必要となるであろう。

E. 結語

日本におけるMSMの割合は2012年調査では2.7%であった。インターネット調査のモニター調査より低い値であり、なぜそのような差があるのかについても検討が必要である。

HIV陽性者の早期発見の増加、AIDSの減少は重要な課題であるが、本調査からは異性愛成人男性群においても、検査行動の変化は観察されなかった。ただ受検割合については地域差があることが示唆された。検査行動に目に見える変化をもたらすにはさらなる啓発や検査環境の整備が必要となる可能性が示唆された。

F. 発表論文等

- 金子典代, 塩野徳史, コーナ・ジェーン, 新ヶ江章友, 市川誠一: 日本人成人男性における生涯でのHIV検査受検経験と関連要因, 日本エイズ学会誌, 14, 99-105, 2012

表1. 対象者の特性 2009年、2012年の比較

	2009(N=1250)		2012(N=1621)		有意差
	n	(%)	n	(%)	
居住地					
関東	604	48.3	801	49.4	ns
東海	221	17.7	257	15.9	
近畿	254	20.3	338	20.9	
九州・沖縄	171	13.7	225	13.9	
年齢					
30-39歳	307	24.6	522	32.2	<0.01
40-49歳	412	33.0	534	32.9	
50歳以上	531	42.5	565	34.9	
学歴					
小学校・中学校	64	5.1	48	3.0	<0.001
高校	475	38.2	533	32.9	
短期大学・専門学校	175	14.1	263	16.2	
大学・大学院	530	42.6	776	47.9	
性行為経験のある性別					
同性のみ	20	1.6	31	1.9	ns
異性のみ	1192	95.8	1519	94.0	
同性と異性の両方	8	0.6	14	0.9	
したことがない	24	1.9	52	3.2	
性的に魅力を感じる性別					
同性のみ	27	2.2	49	3.1	ns
同性、異性両方	19	1.5	28	1.7	
異性のみ	1186	96.3	1524	95.2	

1) 無回答を除いたため回答総数は異なる

表2. 検査受検、情報取得や認知、陽性者の身近さの2時点での比較

	MSM				有意差	異性愛者				有意差
	2009(N=28)		2012(N=44)			2009		2012		
	n	(%)	n	(%)		n	(%)	n	(%)	
生涯の検査受検経験										
あり	6	21.4	6	13.6	0.38	126	10.6	165	10.9	0.77
なし	22	78.6	38	86.4		1064	89.4	1345	89.1	
過去1年の検査受検経験										
あり	0	0.0	1	2.3	ns	31	24.6	30	18.2	0.18
なし	6	100.0	43	97.7		95	75.4	135	81.8	
知識										
3点/6点満点以下	15	53.6	20	46.5	ns 0.63	783	65.8	1026	67.7	0.304
4点/6点満点以上	13	46.4	24	54.5		407	34.2	490	32.3	
過去1年エイズ関連情報入手										
あり	15	53.6	25	59.5	ns 0.62	508	44.8	271	18.7	<0.01
なし	13	46.4	17	40.5		627	55.2	1175	81.3	
HIVマップ認知										
あり	1	3.6	1	2.3	ns	27	2.3	16	1.1	0.011
なし	27	96.4	43	97.7		1152	97.7	1503	98.9	
HIV検査・相談マップ認知										
あり	1	3.6	1	2.3	ns	39	3.3	23	1.5	<0.01
なし	27	96.4	43	97.7		1139	96.7	1496	98.5	
HIVに感染した人が身近にいるか										
いない・いないと思う	22	95.7	26	76.5	ns	873	92.5	1246	94.4	0.066
いる・いると思う	1	4.3	8	23.5		71	7.5	74	5.6	

図3 異性愛者における知識正答率の年次推移

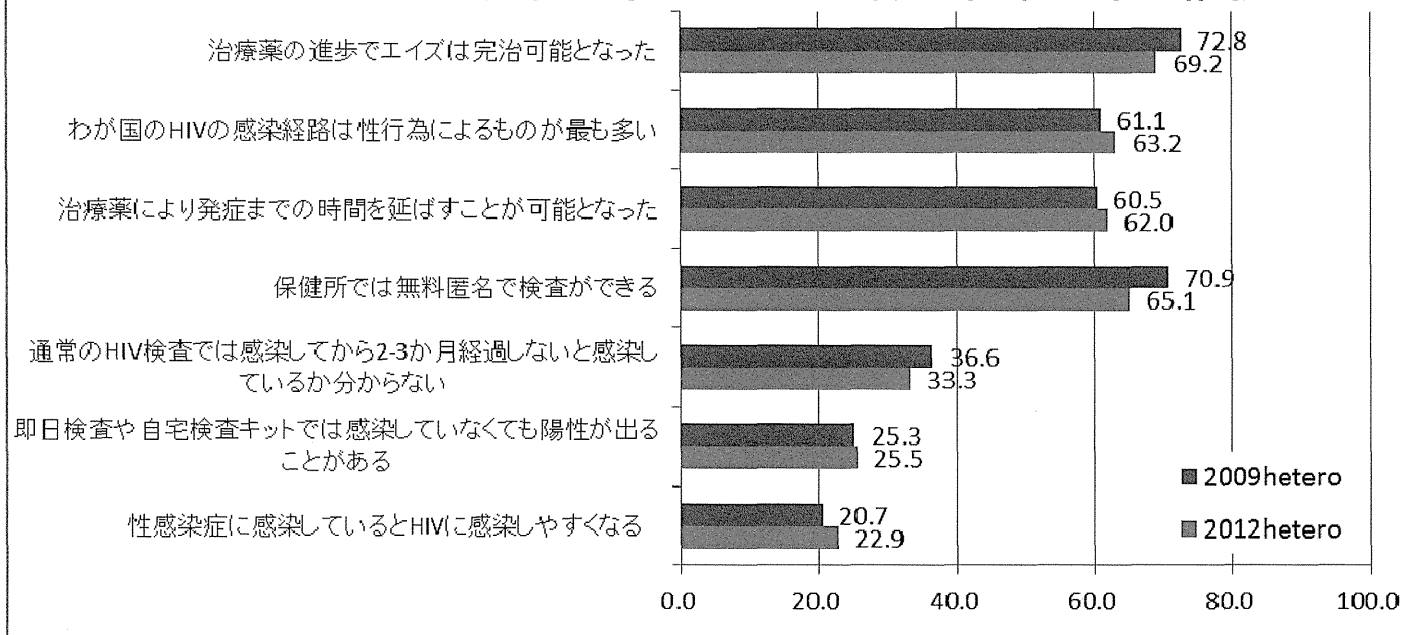
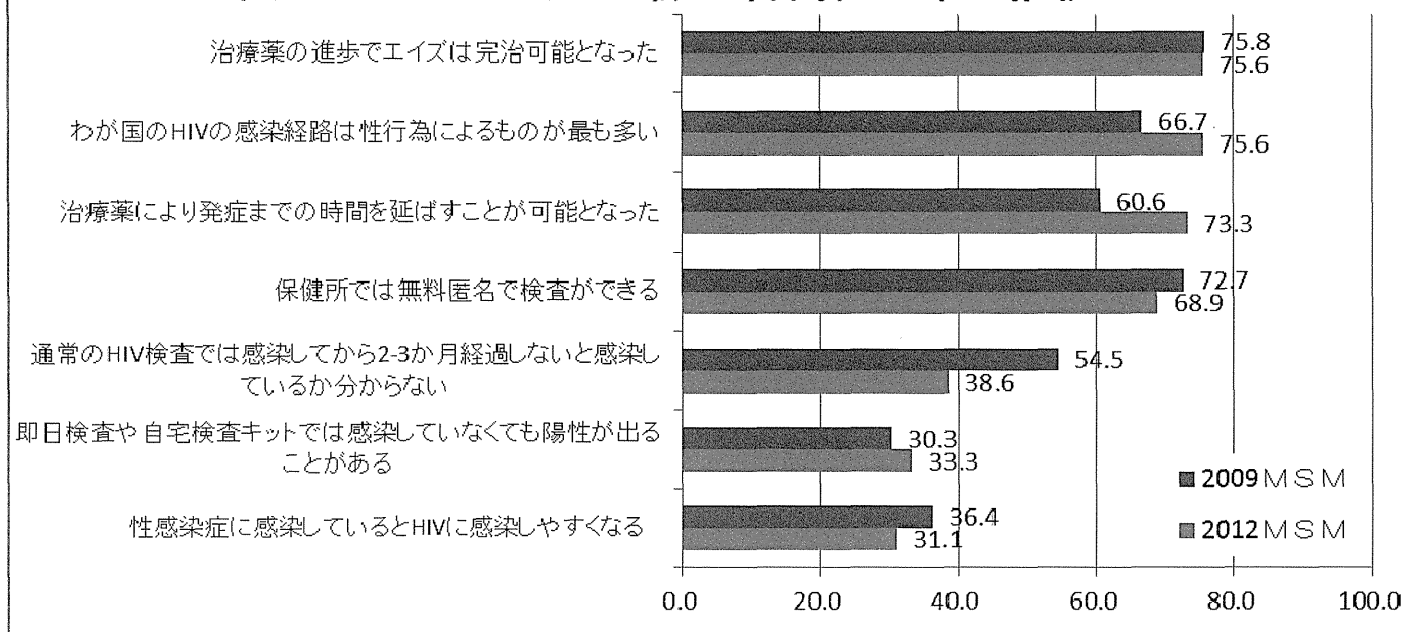


図4 MSMにおける知識正答割合の年次推移



HIV 抗体検査受検者における特性と介入の効果評価に関する研究
-HIV 抗体検査を受検する人を対象とした質問紙調査 2012-

研究協力者：塩野徳史、市川誠一、金子典代、佐々木由理（名古屋市立大学看護学部）

研究要旨

保健所および公的 HIV 抗体検査機関での検査受検者の動向を把握し MSM 等の受検者の特性を明らかにすることを目的とした。8 都府県 11 自治体 83 機関で受検者を対象とした質問紙調査を実施した。通常検査、即日検査のいずれの場合も検査結果が返却される前に質問紙を記入することを依頼した。記入後は回答者が回答用封筒に質問紙を密封し、各機関に設置された回収箱に投函することとした。集められた質問紙は毎月月末に各機関で回収し、調査事務局へ密封したまま郵送された。質問項目は基本属性等の約 24 問とした。

機関からの受検件数総数は 40,766 件であり、陽性判明数は 198 人(0.49%)であった。有効回答は 26,478 人(有効回収率 65.0%)であった。平均年齢は 33 歳±10.6 歳であり最少年齢 12 歳、最高年齢 86 歳であった。MSM 割合は、宮城県内 10.8%、東京都内 14.9%、南新宿検査・相談室 27.1%、神奈川県 11.2%、千葉県 8.2%、愛知県 14.6%、大阪府内 11.4%、chotCAST なんば 15.8%、福岡県内 14.8%、沖縄県内 23.1%であった。南新宿検査・相談室と沖縄県内を除けば各地域の MSM 割合は四半期別にみて 10%-15%前後を推移しており著変はなかった。MSM における HIV 感染が地方や若年層に拡大している可能性が考えられるため受検行動をさらに促進する必要がある。

A. 研究目的

本研究では、保健所および公的 HIV 抗体検査機関での検査受検者の動向を把握し、エイズ予防指針における個別施策層として性的指向の側面で配慮の必要な同性愛者(以下、MSM :Men who have sex with men)や性風俗産業の従事者・利用者の受検者の特性を明らかにすることを目的とした。また啓発普及を展開している NGO と協同し検査行動の促進に関する介入の効果評価を目的とした。

B. 研究方法

本研究では 8 都府県 11 自治体(沖縄県、東京都、愛知県、名古屋市、大阪府、大阪市、神奈川県、横浜市、千葉県、福岡市、仙台市)の協力を得て HIV 抗体検査受検者を対象とした質問紙調査を実施した。2011 年度から継続

して実施した機関は東京都内(18 機関)、大阪府内(17 機関)、愛知県内(16 機関)、沖縄県内(3 機関)であり、2012 年度には神奈川県内(4 月より 7 機関)、福岡県内(4 月より 2 機関、10 月より 1 機関)、千葉県内(5 月より 12 機関)、宮城県内(8 月より 6 機関)、大阪府内(10 月より 1 機関)が新たに加わった。計 83 機関での実施となった(2012 年 12 月末時点)(表 1)。

HIV を含む性感染症の検査受検者に調査回答を依頼し、同意の得られた受検者から回答を得た。通常検査、即日検査のいずれの場合も検査結果が返却される前に質問紙を記入することを依頼した。記入後は回答者が回答用封筒に質問紙を密封し、各機関に設置された回収箱に投函する方法とした。集められた質問紙は毎月月末に各機関で回収し、調査事務局へ密封したまま郵送された。